



AC長野パルセイロ

食べて応援!「テイクアウト&マルシェPV」1/2

新型コロナウイルスの影響により経営に打撃を受けている地域のステークホルダーの皆様と連動少しでも課題解決ができないかという思いから、AC長野パルセイロではホームタウンの飲食店・農家を集めたテイクアウト・マルシェイベントを実施。同時にアウェイゲームを長野Uスタジアムで放映しパブリックビューイングを開催した。コロナ禍における販売機会の確保とともに、失われつつあったイベントを開催することにより・スポーツを通じた市民コミュニティの場を創出し地域活性化に繋がれた。



活動場所 長野Uスタジアム



協働者

企業、行政、飲食店、農家

協働者名

長野市、長野商工会議所、地元飲食店、地元農家

Voice

協働者の声

Blue wing(地元飲食店)／宮川 和巳 氏



コロナ禍で地域が沈んでいる中、食とスポーツを通じ地域活性化していきたいとパルセイロの趣旨に賛同し協力しました。お店としてはお弁当の売上など嬉しい部分だけではなく、地域のシンボルであるパルセイロを通じて大変な時期だからこそ皆が手を取り連携し現状打破に繋げて行くことに意義を感じました。



活動詳細情報

1

[公式サイト](#)

カテゴリ(SDGs)／取り組みテーマ





AC長野パルセイロ

食べて応援! 「テイクアウト&マルシェPV」 2/2

Story

この企画の背景の一つ目として、ホームゲーム会場での飲食店の出店者が増加傾向である。また二つ目として、AC長野パルセイロが地域の農産物をECサイトを通じて販売(マルシェ)を開始した事が挙げられる。共通した課題として、どちらもコロナ禍により新たな販売機会へのニーズが高かった。クラブとしてはこのような時期だからこそクラブの価値を再認識し、地域と共に協働し困難を乗り越えて行きたいという強い思いがあった。

ホームタウンである長野市(行政)と相談する中で、市としても長野Uスタジアムの利用率を高める為、ホームゲーム以外での活用という課題があり、



お互いの課題を解決する為のイベント企画が立ち上がった。さらに地元商工会議所にも賛同いただき、地域の課題を解決すべく長野市(行政)・商工会議所・クラブの3者が協働することができた。また事業費においてはスポーツクラブによるコロナ緊急支援事業(休眠預金等活用事業 2020年度緊急支援枠)を活用。

イベントは10月24日に【食べて応援! 「テイクアウト&マルシェPV in 長野Uスタジアム】として食べて・観て地域を応援するをコンセプトに実施。地元飲食店12店舗のお弁当。また5農家が季節の野菜や果物を持ち寄り販売。人気のお弁当は開始20分で売切れ、パブリックビューイング開始前には全てのお弁当が完売となった。また今イベントの工夫としては単発的ではなく、このイベントをきっかけにお店を知ってもらい、後日実店舗に足をはこんでいただく為、限定のクーポン付きチラシを会場で配布。その後の新規来店に繋がったと飲食店から嬉しい声もあった。



今回クラブとしても初めての試みではあったが、このイベントに対して長野市から好評の評価をもあり、予算組みも検討していただいている。

最後にパルセイロの言葉の意味はポルトガル語でパートナーという意味である。苦しい時こそ手を取り合い、今後も地域のパートナーとして挑戦していきたい。